

(別添)

## 届出外排出量に関する用語集(2. 農薬～18. 水道 及び 20. ダイオキシン類)

	用語	用語の意味
あ行	医薬品	薬事法で定められた「医薬品」のこと。主に、人又は動物の疾病の診断、治療又は予防に使用されることが目的とされている薬剤であり、医薬部外品(別掲)を除く。滅菌薬剤として使用されるホルムアルデヒド、エチレンオキシド等が該当する。
	医薬部外品	薬事法で定められた「医薬部外品」のこと。家庭用殺虫剤等が該当する。
	一般交通量調査	道路交通センサス(別掲)のうち、幹線道路(別掲)における観測地点別の車種別交通量等が調査されるもの。
	一般道路	道路交通センサス(別掲)にて自動車等の交通量(別掲)が把握可能な幹線道路のうち高速道路以外と細街路を合わせたもの。
	一般廃棄物焼却施設	主に家庭等から排出される一般廃棄物(産業廃棄物(別掲)以外のすべての廃棄物)を焼却する焼却能力 200kg/h 以上の施設であり、全国の市町村等で設置している。
	運行モード	船舶に係る燃料消費量等を推計するのに使われる船舶の荷役、航行等の区分のこと。
	運転モード	航空機のエンジン本体からの対象化学物質(別掲)の排出係数を設定するための、航空機の運転方法の分類のこと。既存の推計手法に従い、LTO サイクル(別掲)において、4種類の運転モードを設定した。
	衛生害虫	カ、ハエ、ゴキブリ、ノミ、ナンキンムシ、イエダニ、シラミ、屋内塵性ダニ類のこと。衛生害虫の駆除に使用される殺虫剤は全て医薬品、または医薬部外品に該当する。
	MSDS	"Material Safety Data Sheet"の略称で、化学物質等安全データシートともいう。第一種指定化学物質(別掲)の含有率等が記載されており、化学物質を含む製品の製造事業者や販売事業者からユーザー側に提供することが義務づけられているもの。
	LTO サイクル	「Landing and Take Off」の略称で、空港周辺における航空機の着陸から離陸までのサイクルのこと。アプローチ(進入)、アイドル(アイドリング)、テイクオフ(離陸)及びクライム(上昇)の4つの運転モード(別掲)に分類される。
	LPG 車	液化石油ガス(Liquefied Petroleum Gas)を燃料とする自動車のこと。自動車排出ガス規制では、ガソリン車と同じ規制値が適用される。
	OD 調査	道路交通センサス(別掲)の自動車起終点調査(別掲)と同義。「O」は起点(origin)、「D」は終点(destination)を表す。
か行	外航	船舶(貨物船、旅客船等)が国内の港湾と海外の港湾の間を往復すること。また、外航に使われる船舶のことを外航船舶という。
	界面活性剤	水の表面張力を低下させる働きのある物質のこと。洗浄剤(別掲)の他、農薬、化粧品、塗料等の各種製品に使われている。
	海里	海上の距離を表す単位で、1海里は1,852mに相当する。
	可塑剤	合成樹脂等に柔軟性を与えるために添加される化学物質のこと。

	用語	用語の意味
か行	活性汚泥処理装置	排水中の有機物を細菌や微小動物などの微生物の代謝を利用して分解する処理装置のこと。活性汚泥処理装置には連続式と回分式があり、浄化原理は同じ。
	活動量	排出係数に乗じることで排出量となる数量のこと。 例えば、自動車排ガスに係る排出係数(mg/km)に対応する活動量は自動車走行量(km/年)である。
	家庭用殺虫剤	衛生害虫(別掲)の駆除を目的とし、主に家庭用として販売されている殺虫剤のこと。家庭で使用される殺虫剤のうち、不快害虫用殺虫剤(別掲)とは区別している。
	合併処理浄化槽	汚水処理施設の一つであり、台所や風呂の生活排水、し尿等の処理を行う。下水道が普及していない家庭等に主に設置されている。
	カバー率	実際の数量に対する調査結果の捕捉率のこと。 実態調査等で得られたデータは、一般には対象となる範囲の全体をカバーしていないため、その単純集計は必ずしも実態を正確に反映していない。このように、実際の対象範囲の全体に対し回答結果が占める割合を「カバー率」と呼ぶ。アンケート調査等の回答率と同じ意味で使う場合もあるが、アンケートの回答に偏りがある場合(例:大企業ほど回答率が高い場合)は、単純な回答率ではなく、出荷額等に基づいてカバー率を定義するのが一般的である。
	仮の使用量	農薬に係る推計にあたって使用量を推計するために暫定的に設定した使用量のことであり、この数量に補正を加えることで最終的な使用量が推計される。「仮の出荷量」等も同様の考えで定義される。 「農薬種別・適用対象別」のように、複数の区分がクロスした使用量等を設定する場合、「農薬種類」や「適用対象」といった単独の区分毎に補正を行う場合がある。このような推計をする場合、どちらか一方の指標を使って補正しても、もう一方の指標との整合が必ずしも取れないため、一方の指標によって補正した結果を「仮の使用量」等と呼ぶ。
	簡易水道	水道法において定義されている水道の種類の一つ。計画給水人口が101人か5,000人までの範囲を対象として供給する水道のこと。
	幹線道路	「道路交通センサス」(別掲)にて自動車等の交通量(別掲)が把握可能な道路のこと。一般には、交通量が多い道路である。
	関連指標	地域別出荷量等を推計するための指標のことで、通常は対象となる製品等の種類に最も相関が高いと考えられる統計データが使われる。 製品出荷量はその「関連指標」の値に比例すると仮定すれば、全国出荷量から都道府県別出荷量が推計される。例えば、建築現場用の塗料は「新築着工床面積(m <sup>2</sup> /年)」を関連指標として、都道府県別の塗料出荷量(t/年)が推計される。
	規制対応/未対応	二輪車は平成10年(一部11年)に排ガス規制が行われており、その排ガス規制に対応又は未対応の分類を示す。規制対応/未対応の違いにより、排出係数(別掲)が異なる。

	用語	用語の意味
か行	揮発性有機化合物 (VOC)	「Volatile Organic Compounds」の略称。有機化合物のうち、沸点が概ね250 以下の物質を指す場合が多い。炭化水素( 別掲)のほか、ジクロロメタン等のハロゲン化炭化水素やアルデヒド類等の含酸素化合物などにも含まれる。 溶剤、燃料、工業原料などとして VOC を用いる際に、特に開放系では蒸発によって VOC が排出される。また、有機化合物の燃焼においても、非意図的に VOC が生成する。VOC のうち、メタンは反応性に乏しいため、メタン以外の VOC だけを対象とする場合があり、それを NMVOC( 別掲)という。
	漁網防汚剤	漁網に藻類や貝類が付着するのを防止するために塗布する薬剤のこと。定置網漁業で用いられる定置網や、水産養殖業で用いられる網に使われ、海中での網の使用に伴って漁網防汚剤が少量ずつ海中に溶出し、また、網に塗布する際に溶剤のキシレンが大気中に排出されると考えられる。
	区間延長	道路区間( 別掲)ごとの長さ(km)をいう。
	下水道普及率	ある地域の人口総数(人)に対し、公共下水道が普及している地域に居住する人口(人)の割合(%)のこと。 対象化学物質が水域へ排出される場合、公共用水域へ排出される量と公共下水道に移動する量とを分けて推計するための指標として用いられる。
	検疫	病害虫の媒介を防ぐために、輸入農産物等の検査を行うことであり、それに伴いくん蒸等が行われる。
	原材料使用量	製造会社において製品を製造する際に使用した原料(対象化学物質 別掲)の量のこと。
	公共用水域	河川、湖沼、港湾、沿岸海岸、かんがい用水路、その他公共の用に供される水域や、これらに接続する水路等のこと。 水質汚濁防止法において公共用水域とは、終末処理場を設置する公共下水道及び流域下水道以外の公共の用に供される水路、水域と規定され、また環境基本法に基づいて公共用水域の水質環境基準が設定されている。
	交通量	道路区間( 別掲)に設定した観測地点において、12 時間又は 24 時間に通過した自動車等の台数(台/12h 又は台/24h)のこと。
	港湾区域	港湾法で定める手続きにより、運輸大臣又は都道府県知事が港湾管理者の権限の及びうる範囲として認可した水域のこと。 港湾区域は、経済的に一体の港湾として管理運営するために必要な最小限度の区域とされている。港湾区域は、港湾管理者業務、港湾施設、入港料徴収についての地域的範囲を画するものであり、また、港湾管理者の長には、公有水面埋立法による埋立の免許や工事等の許可権限等の職権が属する等の法効果が生じる。
	小型廃棄物焼却炉等	一般廃棄物焼却施設( 別掲)及び産業廃棄物焼却施設( 別掲)の対象とはされていない焼却能力が 200kg/h 未満の焼却炉、し尿処理施設/下水道終末処理施設の汚泥焼却炉のこと。
	呼吸ロス	燃料等の貯蔵タンク内の気体が温度変化に伴って外部へ排出されること。 温度変化により、燃料等のタンクの気体が膨張・収縮するため、タンク内に蒸発した状態で充満していた物質が通気管から大気へ放出し、また逆に空気が流入する。これを繰り返すことにより、貯蔵されている燃料等が少量ずつ減少する。
	コールドスタート	自動車のエンジンが常温の状態ではエンジンを始動すること。触媒が暖まっていないため十分機能せず、走行量当たりの炭化水素排出量等が一般に高い。「冷始動時」と同義。

	用語	用語の意味
か行	コールドスタート時増分排出量	コールドスタート(別掲)によって、通常走行(ホットスタート(別掲))と比較して増加した分の排出量のこと。
	混雑時旅行速度	各道路区間において、最も混雑している時間帯の旅行速度(別掲)のこと。 何れの道路区間においても、実際の旅行速度は時間帯によって変化するものの、今回の推計では道路区間毎に「混雑時旅行速度」で旅行速度を代表させ、排出係数を設定した。
さ行	細街路	「道路交通センサス」(別掲)では自動車等の交通量(別掲)が把握できない道路のこと。一般には、交通量が少ない道路である。 幹線道路(別掲)と細街路の走行量(別掲)を合計することで、地域全体の自動車等の走行量となる。 細街路の走行量は、自動車輸送統計年報(別掲)から得られる地域全体の走行量と幹線道路の走行量の差として推計される。
	剤型	農薬(別掲)の薬剤としての形状を分類するための名称のこと。例えば、乳剤、粉剤、水和剤、くん蒸剤などがある。
	サブエンジン式機器	移動体において、走行のためのメインエンジン以外に搭載されているエンジン式機器。空調機器や冷凍機器等が該当する。届出外排出量(別掲)の推計では、冷凍冷蔵車の「サブエンジン式冷凍機」及び長距離バスの「サブエンジン式クーラー」を対象とする。
	産業廃棄物焼却施設	産業廃棄物(燃えがら、廃油等)を焼却する焼却能力 200kg/h 以上の施設であり、事業者等が設置している。
	産業連関表(延長表)	総務省が5年毎に作成する産業連関表を補完するために経済産業省が作成する統計資料のことであり、投入表や産出表などから構成されている。そのうち産出表には、「塗料」や「農薬」といった部門毎の全国における生産者価格(百万円)(別掲)等が必要分野(別掲)ごとに記載されている。 経済産業省では、最新時点の経済構造を反映した産業連関分析を可能にするため、昭和48年以降、毎年、産業連関表(延長表)を作成している。産業連関表(延長表)は、総務省をはじめとする10府省庁の共同作業として5年毎に作成される産業連関表(基礎表)をベースに、経済産業省が独自に作成している我が国の経済構造を明らかにする基礎統計である。
	残存率	一度登録された車両が登録抹消されずに残存している割合のこと。
	事業主体	上水道を家庭等に供給する事業者のこと。市区町村や広域組合などが多い。
	始動回数	移動体において、エンジンを始動し走行を開始する回数のこと(走行距離にはよらない)。
	自動車起終点調査	道路交通センサス(別掲)のうち、登録自動車からサンプルを抽出し、ある1日の自動車の動きについて調査するものである。調査項目には、出発地、目的地、トリップ数(別掲)、運行目的、積載品目、運行時刻がある。OD調査(別掲)とも呼ばれる。
	自動車輸送統計年報	国土交通省(旧運輸省)が発行・実施している自動車輸送統計および自動車関係諸統計が収録されている年報のこと。 抽出された自動車ユーザーの報告した自動車走行距離等を地域別に集計し、地域別の実際の走行量等を拡大推計した結果が記載されている。細街路(別掲)を含めた道路全体の走行量が把握できるものの、集計される地域が「走行した場所」ではなく「自動車の本拠地」であるため、本拠地から離れて走行した車両の分だけ「当該地域の走行量」と乖離していると考えられる。

	用語	用語の意味
さ行	車籍地	自動車のナンバープレートに掲載されている地域のこと。
	11モード (じゅういちモード)	郊外から都心に向かっての走行パターンとして設定された現行の自動車排ガス規制でコールドスタート(別掲)について採用されている方法。試験車のエンジンを暖機後、さらに6時間以上停止放置した後、試験を行う。
	10・15モード (じゅうじゅうご)	都市内高速道路の整備、渋滞の悪化等、都市内走行実態を反映したものとするために、現行の自動車排ガス規制でホットスタート(別掲)について採用されている方法。試験車のエンジンを暖機後(別掲)、試験を行う。
	主機ディーゼル	船舶の推進用原動機のこと。
	樹脂原料 (未反応モノマー)	塗料等の製造段階で製品中に未反応のまま微量に残存するモノマーのこと。 塗料や接着剤等の製品には一般に樹脂が使われており、塗料等の製造段階でモノマーが重合してポリマー(樹脂)となっている。しかし、モノマーを完全に重合させることができず、未反応のモノマーが製品中に微量ながら残存することがあり、それが塗料等の使用段階で環境中に排出すると考えられる。
	需要分野	製品が使用される分野のこと。 塗料や接着剤といった製品は、一般に複数の分野で使用されており、製品が使用される分野は製品の種類毎に異なるが、このような分野のことを一般に「需要分野」と呼ぶ。「建築現場」や「家庭」などが需要分野の代表的な例である。
	需要割合	製品の出荷量全体に対する、需要分野(別掲)ごとの出荷量の割合のこと。 例えば、塗料Aの4割が建築現場向けに出荷されているとすると、塗料Aにおける建築現場の需要割合は40%である。
	主流煙	たばこの喫煙にともなう煙のうち、喫煙者本人の体内に吸入される煙のこと。体内を經由して、煙は最終的には環境中へ排出されると考えられるが、体内への対象化学物質(別掲)の吸着状況等が不明のため推計の対象とはしていない。
	消火剤	火事等を消火するのに散布する薬剤のこと。特にハロゲン化物消火剤には、第一種指定化学物質(別掲)に該当するハロンが使われる。 ハロン(炭素数2以下の脂肪族炭化水素の水素をハロゲンで置換したものは、含有するハロゲン原子が熱分解して燃焼にマイナスの触媒的な働きをするため、消火剤として使用される。オゾン層破壊物質としてハロン1211、1301、2402が全廃の対象となっている。
	使用係数	基準となる年に登録された車両の使用頻度に対する、ある年に登録された車両の使用頻度の比率。届出外排出量推計では、推計対象年度を基準年度としている。
	上水道事業	簡易水道(別掲)、専用水道(別掲)等を除く水道のこと。給水人口が5,001人以上の水道が該当する。
	浄水濃度	浄水場別に測定された浄水(塩素消毒された後の水)中のトリハロメタン等の濃度。浄水場付近で測定される場合や末端の給水栓で測定される場合など、測定箇所は法律上は定義されていないが、水道統計に掲載されている浄水濃度は給水栓における濃度とみなして推計を行っている。
	触媒	自動車の排気ガスに含まれる化学物質等を除去するための装置。排気ガスの温度等の条件により化学物質の除去割合等が異なる。また、新車時に比べて触媒が劣化することも知られている。
	初度登録年	新車(別掲)として登録された年のこと。
	新車	製造されて初めて登録を受けた車両のこと。

	用語	用語の意味
さ行	新築着工床面積	新たに建てた建築物の床面積のこと。国土交通省の「建築統計年報」で数値が把握できる。
	シンナー (希釈溶剤)	揮発性の有機溶剤(別掲)の混合物のこと。 例えば塗料の希釈に使用する場合、目的とする塗料の種類に合わせて、塗装時の粘度調整のために配合されるが、数種の塗料に共通して使用できるシンナーもある。その代表的なものが塗料用シンナーと呼ばれるもので、主成分は石油系炭化水素である。
	ストローク数	二輪車における2ストローク及び4ストロークのこと。
	生産者価格	生産者が生産物を流通業者に販売する時の価格で、生産費に生産者の利潤を加えたもの。産業連関表(延長表)(別掲)の投入表、産出表ともに各部門の生産者価格で表される。
	生成量	水道のトリハロメタン(別掲)やたばこの煙から発生する対象化学物質(別掲)のように、意図的に製造した場合以外に対象化学物質が発生する量のこと。
	洗剤	家庭用や業務用として洗浄用途に使用される合成洗剤等の薬剤のこと。洗剤には、界面活性剤や中和剤として第一種指定化学物質(別掲)が含まれている。
	全炭化水素(THC)	炭素と水素だけから構成される有機化合物(C <sub>n</sub> H <sub>m</sub> )のこと。"THC"と略称される。第一種指定化学物質(別掲)としてはベンゼンやトルエン等が代表的なものである。 塩素や酸素を含む化合物(例えば、塩化メチレンやホルムアルデヒド)も広義の炭化水素と呼ぶ場合があるが、それらは「ハロゲン化炭化水素」等と呼ぶのが一般的であり、単に「炭化水素」という場合には含まれない。 炭素原子相互の結合の仕方によって鎖式炭化水素と環式炭化水素とに大別される。人為的発生源としては、塗料、印刷インキ、接着剤、金属洗浄、クリーニングなどに使われる有機溶剤(別掲)に由来するものが多い。自動車等の排気ガスにも含まれている。
	専用水道	水道法に定められた「専用水道」のこと。寄宿舍、社宅、療養所等において101人以上の居住者に水を供給する自家用の水道、または1日に最大20m <sup>3</sup> を超えて生活用の水を供給する水道のことであり、簡易水道(別掲)とは区別されている。
	走行量	道路区間(別掲)又は地域全体の幹線道路や道路全体を走行した自動車等の延べ走行距離(km)のこと。 例えば、道路区間ごとの交通量(台/24h)に当該道路区間の区間延長(km; 別掲)を乗じることによって、当該道路区間の1日走行量が算出され、それを1年間の走行量に換算し、さらに地域全体で集計することで、幹線道路における延べ走行量(km/年)が推計される。交通量(台/24h)と区間延長(km)を乗じて推計されるため、走行量の単位としてしばしば「台km/年」が使われるが、単に「km/年」とする場合とほぼ同じ意味である。
	ソーク時間	エンジン停止時から次に始動するまでの時間のこと。
た行	第一種指定化学物質	「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」に基づき、PRT制度の対象として指定された354種類の化学物質のこと。第二種指定化学物質と共に、MSDS(別掲)の提供も同時に義務づけられた。 人の健康を損なうおそれ、または動植物の生息もしくは生育に支障を及ぼすおそれ、またはオゾン層破壊物質などであって、相当広範囲の地域の環境において継続して存在すると認められる化学物質であり、化学物質排出把握管理促進法に基づいて、政令により指定された。

	用語	用語の意味
た行	対象業種	P R T R制度で排出量を届け出る必要がある事業者の業種のこと。製造業の他、倉庫業、燃料小売業、洗濯業等の24業種が規定されている。
	対象化学物質	P R T R制度の第一種指定化学物質(別掲)のこと。事業者による届出や届出外排出量の推計の対象になることから「対象化学物質」と呼ばれることがある。
	対全国比	排出量等の地域配分に使う関連指標(別掲)の値について、全国の合計に対する都道府県別の値の比率のこと。
	対 THC 比率	THC(全炭化水素として別掲)排出量に対する対象化学物質(別掲)排出量の比率
	昼夜率	道路交通センサス(別掲)における自動車や二輪車の交通量について、昼間12時間交通量に対する24時間交通量の比で定義される値のこと。
	定格出力	エンジンが最大の出力で稼働した時に得られる出力(kW)のこと。
	定格燃料消費量	エンジンが定格出力(別掲)で稼働したときに、単位時間当たり消費する燃料の数量のこと。例えば船舶の場合、1隻が1時間で消費する燃料の重量として、「kg/隻・時」といった単位で表される。
	定量下限値	精度が十分である分析機器で求めることができる最低保証値。水道統計で対象化学物質の浄水濃度(別掲)が定量下限値未満の場合には、「18.水道」の推計方法で浄水濃度の設定方法を記述している。
	適用対象	農薬(別掲)が適用(使用)される対象(水稲、野菜・畑作、果樹等)の分類のこと。
	展着剤	農薬が目的とする作物や病害虫によく付着してその効果を発揮するように、散布液に混入する薬剤。
	道路区間	幹線道路(別掲)における交通量(別掲)は、当該道路全体ではなく、当該道路を細分化した個々の区間毎に設定しており、それらの区間のことを「道路区間」という。
	道路種別	道路交通センサス(別掲)の道路種類のこと。高速自動車国道、一般国道、主要地方道、指定市市道等がある。
	届出事業所	法律に基づくP R T R(別掲)で、国に対象化学物質(別掲)の排出量等の届出をした事業所のこと。
	届出排出量	届出事業所(別掲)により届出がされた排出量のこと。
	届出外排出量	対象化学物質(別掲)の環境中への排出量のうち、届出排出量(別掲)以外のすべての排出量のこと。
	道路交通センサス	正式名称は「全国道路・街路交通情勢調査」であり、全国の道路と道路交通の実態を把握することを目的に約3年に1回実施される調査のこと。また、その結果を収録した統計データの名称として使うこともある。 国土交通省が行っており、幹線道路(別掲)における観測地点別の車種別交通量等が調査される一般交通量調査(別掲)と自動車起終点調査(別掲)とがある。
	道路実延長	道路法の規定に基づき指定、認定された路線の総延長から未供用部分等を除いた道路の長さのこと。
	トリップ	出発地から目的地へ移動すること。例えば、家から直接店へ行くと1トリップ、家から郵便局に行き、さらに店へ行くと2トリップになる。

	用語	用語の意味
た行	トリップ長	トリップ(別掲)の長さ。
	トリハロメタン	メタンの三つの水素原子をハロゲン原子で置換した4種類の化合物の総称。 浄水場で水に注入された塩素等と有機物との反応により水道水中で非意図的に生成される物質で、第一種指定化学物質(別掲)としてはクロロホルム及びブロモホルムの2物質が該当する。
な行	内航	船舶(貨物船、旅客船等)が国内における他の港湾との間を航行すること。また、内航に使われる船舶のことを内航船舶という。内航の場合、船舶は原則として領海内(陸地から12海里(別掲)以内)を航行する。
	夏日日数	気象台・測候所で観測された日最高気温が25度以上の日を夏日といい、その年間の日数のこと。
	夏日日数補正係数	東京都の夏日日数を基準とした場合の、各都道府県の夏日日数の比率のこと。殺虫剤の都道府県別使用量を推計する際に用いる値である。
	二次合板	接着剤工業会による需要分野(別掲)の一つ。二次加工をした合板のこと。
	年次補正	推計対象年度よりも古い統計等を使用する場合に行う、推計対象年度の排出量を推計するための補正のこと。
	燃料種類	移動体等が消費する燃料の種類のこと。ガソリン、軽油、A重油、C重油、LPG、天然ガスなどがある。
	農薬	農薬取締法に基づいて登録されている薬剤のこと。 複数の原体(有効成分 別掲)を組み合わせたか、補助剤(別掲)を添加して薬剤として使用するのが一般的である。農薬と同じ原体を含む薬剤でも、非農耕地での使用に用途が限定され、農薬取締法に従って登録されていないものは「農薬」には該当しない。
	農薬衛生費	農家が主に農薬の購入等のために支払った費用のこと。
	農薬種類	農薬(別掲)の商品を分類した種類のこと。同じ農薬種類でも、農薬メーカー毎に異なる商品が販売している場合があるが、農薬種類が同じである限り、有効成分(別掲)の含有率は同じである。 各農薬種類には5桁の農薬種類コードが付けられている(平成14年9月30日現在、5,059種類)。 「殺虫剤」や「除草剤」といった農薬種類のグループも農薬種類と呼ぶ場合がある。例えば、殺虫剤は農薬種類コードが10000番台の農薬種類から構成され、除草剤は農薬種類コードが40000番台の農薬種類から構成される。
	農薬年度	農薬(別掲)の出荷数量が把握できる期間のこと。前年の10月から当該年の9月までをいい、例えば平成14農薬年度とは、平成13年10月から平成14年9月までを示す。
は行	媒体	対象化学物質(別掲)が排出される大気、公共用水域(別掲)、土壌の区分のこと。
	排出係数	対象化学物質(別掲)が単位あたりに排出される量のこと。例えば、自動車の推計では走行量(別掲)あたりの排出係数を用いる。
	排出率	対象化学物質(別掲)の使用量に対して、その使用に伴って実際に環境中へ排出される数量の割合のことで、百分率(%)で表される。
	バース	船舶が接岸、係留する水面の場所のこと。通常、一つの港湾区域内に複数のバースが存在する。

	用語	用語の意味
は行	発泡剤	断熱性を高めるような目的で合成樹脂等に「泡状の空間」を作って封入される気体のこと。 冷媒(別掲)と同様に、反応性に乏しく安定なフロンガスが幅広く使われてきたが、オゾン層破壊や地球温暖化の観点から、他の物質への代替が進められている。
	汎用エンジン	届出外排出量の推計においては、自動車等の移動体の動力源等に用いられる以外のエンジンを言い、「コンクリートミキサ」、「刈払機」、「発電機」などがある。
	PRTR	"Pollutant Release and Transfer Register"の略称。 我が国では「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」(別掲)によって届出等の法的義務が課せられている。事業者によって届出された排出量・移動量と共に、国が別途推計する届出対象外の排出量と併せてデータを一般に公表し、事業者の自主管理の促進や環境リスクの把握など、さまざまな目的にデータを活用することとしている。
	PRTRパイロット事業	法に基づくPRTR(別掲)に先行して、環境庁(当時)が平成9年度から平成13年度まで一部地域で実施したPRTRのモデル事業のこと。平成12年度からは経済産業省との共同事業として実施した。
	病床規模	病院の入院施設のためのベッド数のこと。病床規模を、病院の規模とみなすことにより推計を行っている。
	非対象業種	法が規定するPRTRの対象業種(別掲)以外のすべての業種のこと。例えば、農林水産業や建設業、運輸・通信業などが非対象業種に該当する。
	非電化区間	鉄道運行区間の内、電化が行われていない区間のこと。ディーゼルエンジンを搭載した車両が走行する区間。
	非農耕地	農耕地(田、果樹園、畑)以外の場所のうち、農薬を散布する場所のこと。届出外排出量(別掲)の推計では、家庭、森林、ゴルフ場、その他の非農耕地に分類している。
	非メタン揮発性有機化合物(NMVOC)	「Non-Methane Volatile Organic Compounds」の略称。VOC(別掲)から反応性の低いメタンを除外した化合物の総称。
	標準組成	塗料等の製品を分類し、各分類毎に第一種指定化学物質(別掲)の含有率を標準値として設定したもの。 「塗料」や「接着剤」といった化学物質製品は、個々の製品毎に第一種指定化学物質(別掲)の含有率が異なるが、膨大な数の製品で含有率を設定して排出量を推計するのは困難なため、機能等が類似する製品をグループ化し、それらのグループ毎に第一種指定化学物質の平均的な含有率を設定するのが一般的である。
	微量成分	MSDS(別掲)では把握できないような含有率が1%未満の対象化学物質(別掲)のこと。
	不快害虫用殺虫剤	衛生害虫(別掲)以外の昆虫等を駆除するための殺虫剤。主に家庭で散布される。
	負荷率	エンジンの定格出力(kW; 別掲)に対する実際の稼働時の出力(kW)の比率のこと。
	副流煙	たばこの喫煙に伴う煙のうち、喫煙者の体内には吸入されずに環境中に直接排出される煙のこと。
	物質番号	第一種指定化学物質(別掲)に付されている物質の番号をいう。
	ブレーキパッド	ディスクブレーキを構成する摩擦材のこと。ブレーキパッドとディスクローターとを擦り合わせる事でタイヤの回転を止めて車両を停止させる。鉄道のブレーキパッドに使用されている石綿の摩耗を排出量として推計している。

	用語	用語の意味
は行	分水量	水道の事業主体が浄水を他の事業主体に給水する量のこと。
	ベイト剤	家庭用殺虫剤のゴキブリ用毒餌剤等のこと。環境中への排出はほとんどないと考えられるため、推計の対象とはしない。
	ヘンリー定数	揮発性物質を含む溶液が平衡状態にあるときの、気相と液相の分配係数のこと。 気体の液体に対する溶解度は温度が低いほど、また気体の分圧 $p$ (atm)が高いほど大きくなるが、温度が一定の時、溶液中の溶質ガスのモル分率 $x$ が小さい範囲では、 $x$ は $p$ に比例し、 $p = E x$ で表される。この関係式における定数 $E$ をヘンリー定数(atm/モル分率)という。
	防疫用殺虫剤	衛生害虫(別掲)の駆除に用いる殺虫剤のうち、自治体や防除業者が使用するもの。家庭用殺虫剤(別掲)等とは推計上は区別している。
	補機ディーゼル	船舶に搭載されている原動機のうち、主機ディーゼル(別掲)以外のもの。
	補助剤	農薬(別掲)に含まれる成分のうち、有効成分(別掲)の効力を維持、増強したり、施用しやすいようにするために加える物質のこと。
	補助動力装置(APU)	「Auxiliary Power Unit」の略称であり、航空機のエンジン停止時の機内冷暖房等の動力源として利用される機器のこと。
	補正係数	「仮の使用量」(別掲)等に乗じることによって実際の使用量を算出する値のこと。
	ホットスタート	自動車等の触媒が十分に暖まった状態で始動、走行すること。暖機後と同義。
ま行	メチレンブルー活性物質	メチレンブルーと反応してクロロホルムに溶解する錯体をつくるアニオン界面活性剤のことで、LAS等を含む。
	滅菌代行業	病院等から委託を受け、診察、治療用機材の滅菌を代行する業。診察、治療用機材を自社の工場へ搬入し滅菌を行う。
や行	有効成分	農薬(別掲)の中に含まれる成分で、「殺虫」や「除草」といった当該農薬の目的とする機能を持つ成分のこと。農薬種類(別掲)毎に有効成分の種類や含有率は同じである。
	有収水量	浄水場から供給される水量に関連し、料金徴収の基礎となる水量のこと。 計量栓はメータにより計算した実使用水量を、また定額栓は使用人員、浴槽、水洗便所等の認定基準水量に人員及び栓数を乗じて得た水量をいう。
	溶剤(有機溶剤)	他の物質を溶解するのに使われる液状の物質のこと。特に有機化合物が溶剤として使われる場合、「有機溶剤」と呼ばれる。 有機溶剤は塗料や接着剤等に幅広く使用されており、非水溶性の物質をよく溶かし、一般に揮発性が高い物質である。第一種指定化学物質(別掲)ではトルエンやキシレンが代表的な物質であり、PRT R(別掲)では特に大気への排出量を把握することが重要である。
ら行	旅行速度	道路区間ごとに、停止も含めた自動車等の走行速度(km/h)のこと。
	離陸推力	飛行機が離陸するときに必要なとするエンジンの推進力をいう。
	冷媒	エアコンや冷蔵庫等の冷凍機に封入し、圧縮と膨張を繰り返すことによって冷気を取り出すのに使われる気体のこと。 発泡剤(別掲)と同様に、反応性に乏しく安定なフロンガスが幅広く使われてきたが、オゾン層破壊や地球温暖化の観点から、他の物質への代替が進められている。